

全国産業廃棄物連合会

(公社)全国産業廃棄物連合会(石井邦夫会長)は11月11日、岡山中のホテルグランヴィ

ア岡山で「第15回産業廃棄物と環境を考える全国大会」を開催した。(公財)日本産業廃棄物処理振興センター(公財)産業廃棄物処理事業振興財団との共催で、約600人が参加。廃棄物処理法や低炭素化の取り組みを大きなテーマに掲げ、今後の業界の展望について議論を深めた。

冒頭のあいさつで石井会長は、「連合会では、2015年6月に策定した低炭素社会実行計画をさらに進めていくため、検討委員会を設置し、30年度にお



石井邦夫会長

ける温室効果ガスの削減目標の検討に着手す

岡山で全国大会を開催 処理法改正や低炭素化テーマに

る。低炭素社会の構築は、環境を守り、産業

環境大臣表彰の受賞者



を支援するというわれわれの業界にとって、循環型社会と並ぶ重要な課題となっている」と、産物の再生利用率が53%前後で推移して、016年度「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」が行われ、産業廃棄物関係事業功労者として25人が受賞した。

率約44%で、そのうち収集運搬が約18%と、そのうち「分りやすく、メリットがあるもの」など意見が交わされた。

またその席上で、2016年度「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」が行われ、産業廃棄物関係事業功労者として25人が受賞した。

「産業廃棄物処理業界中尾豊謙における低炭素化について」をテーマに、「(一)社」低炭素社会創出促進協会の荒井眞一氏が、パネリストは、「廃棄物」環境省の中尾豊謙長▽岡山県環境文化部長の適正処理の更なる推進「靖課長▽銘建工業バイオマス事業部の坂本規一を掲げ、事業部長▽バイオディテ電子マール岡山の岸政彦社長▽タマタイ産業の大塚雅司社長。木質バイオマス改善オマスやバイオディや普及セル燃料化等の事業紹介があり、「分りやすく、メリットがあるもの」など意見が交わされた。

またその席上で、2016年度「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」が行われ、産業廃棄物関係事業功労者として25人が受賞した。